



生協の“静脈物流”を生かした「回収ビジネス」の事業構造と可能性

コープさっぽろ 執行役員 生産本部長

よしだ よういち
吉田洋一氏

2008年10月、店舗・宅配事業から出される紙類やスチロール類の回収・再資源化と販売を行なうエコセーター（江別市）を稼働させたコープさっぽろ。組合員からの廃食用油などの有料回収も実施し、10年度には、約2.9億円の販売額と、1.2億円以上の経常剰余が出ているという。生協の“静脈物流”を生かした「回収ビジネス」の事業構造と可能性について、生産本部長の吉田洋一氏にお聞きした。

事業ベースに乗る環境の取り組みとして、エコセーターを設立

コープさっぽろでは一時期、経営状態が大変悪化し、日本生協連からの支援を受けて事業再建に取り組んできました。しかしその間、事業に特化した経営を行なっていたため、環境にはあまり取り組むことができませんでした。

2006年度の決算で、ある程度経営改善のめどが見えたこと、また組合員からの要望もあり、環境への取り組みを考え始めました。しかし、その取り組みには多くのコストが掛かります。生協らしい取り組みとはいえ、「再建途上なのに、さらにそういう活動を行なうことが本当にいいのかどうか」が議論されました。そこで07年に、事業ベースに乗せられる環境の取り組みができないかと、皆で知恵を出し合って考えたのが「エコプロジェクト21」の取り組みでした。このプロジェクトでは、「これは費用が少なくて済む」とか、「お金が稼げるかもしれない」といった案を出し合い、検討を重ねました。最終的に22項目が挙げられ、08年から事業化に向けた取り組みが始まりました。



吉田洋一氏



写真1 コープさっぽろ・エコセンター

住所：江別市東野幌^{ひがしのっぽろ}147-1

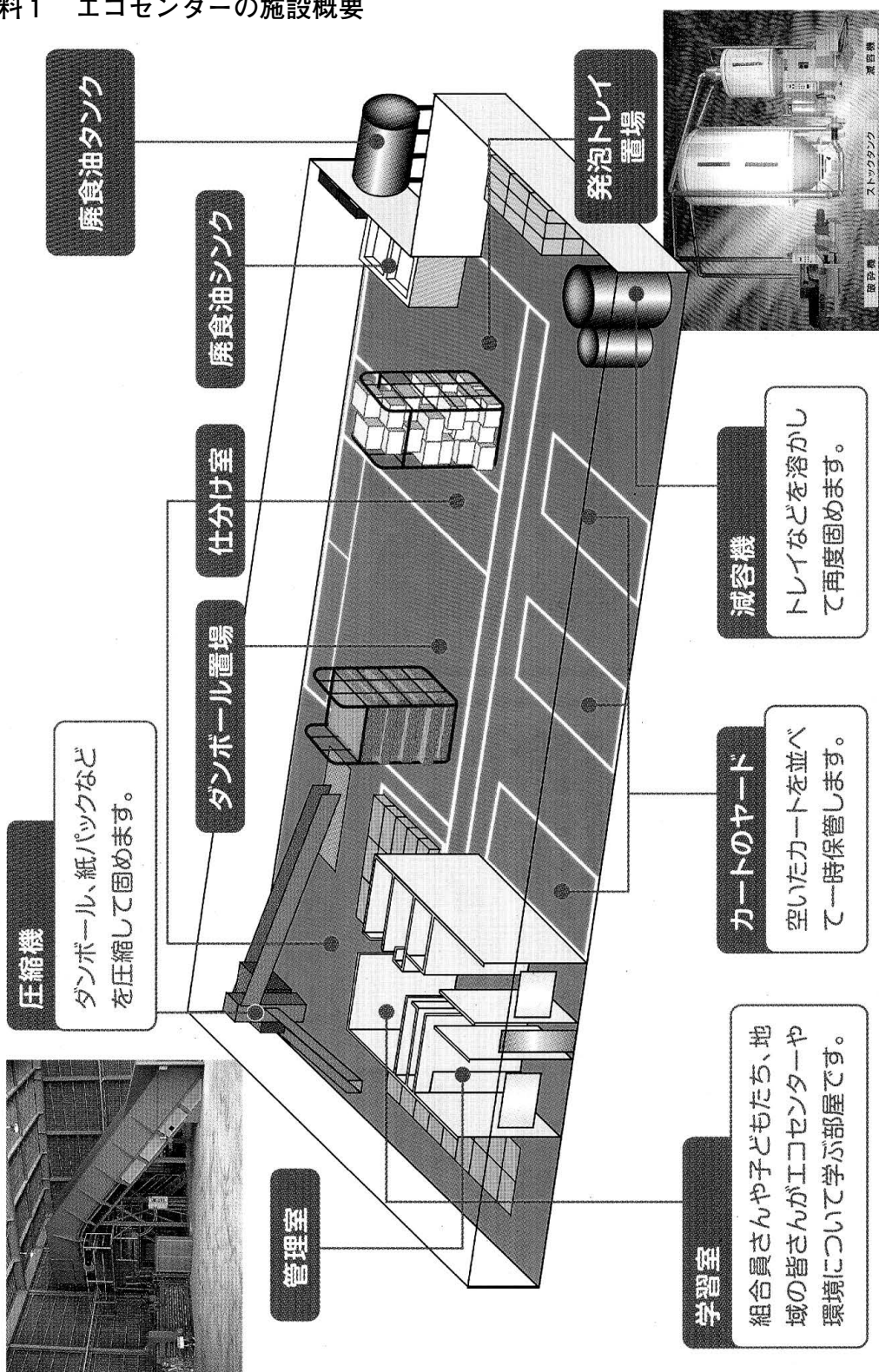
敷地面積：12,731m² 建物面積：約2,150m² 従業員：13人

その中の1つとして08年10月に、このエコセンター（写真1、資料1）が設立されました。実際に建設を決めたのは、08年春の理事会です。用地を取得して工場の設計を行ない、建物の建築を進め、10月には稼働させることができました。設備投資は土地代も含めて約5億3,000万円掛かりました。

もちろん道内各地には、それまで生協の各事業所から出る資源ゴミの回収をいただいていた業者さんがいるわけです。そこで、工場の建設・稼働に向けた取り組みを進める一方で、各業者さんへのお断りや、ご理解をいただく必要がありました。そのためにエコセンター立ち上げ時のセンター長が取引のあった約50社を回って、全社からご理解をいただいています。

前述のように、エコセンターには計画段階から事業ベースとして成立することが前提としてありました。そのために、当初の計画では店舗から出る紙類やスチロール類、宅配で組合員に配ったカタログ、チラシ、内袋、牛乳パックなど、そういったものの回収物だけで事業成立する計画を組み立てました。

資料1 エコセンターの施設概要



なお、エコセンターの詳細はHPにて、ご覧ください。
<http://www.coop-sapporo.or.jp/contents/view/id/80>

「事業的に成り立つ」ということを前提に 回収物を設定

現在、回収を行なっているものは、紙類がトドック（宅配）の商品案内やチラシ、段ボール、紙パック、新聞紙（宅配のみ）、プラスチック類が発泡トレイ（魚箱を含む）、PPバンド、宅配の内袋、それに廃食用油とアルミ缶となります（資料2）。このうち最初から行なっていなかったものは宅配での新聞紙と発泡トレイの回収で、09年から回収を始めました。

なお、ペットボトルの回収は行なっていません。それは、先ほど申し上げたように「事業的に成り立つ」ということを前提にしているからです。ペットボトルはかさばりますので、別便を仕立てないと到底回収し切れません。そうすると、“静脈物流”の戻り便を活用して行なうという、ローコスト運営が崩れてしまいます。

ペットボトルの回収を行なわないもう一つの理由は、道庁さんとの関係で、ここは産業廃棄物処理施設ではなく、廃棄物再加工工場として許可を得ていることがあります。そのため回収物全体が有価になっていることが必要です。ペットボトルの資源価格は1kg当たりせいぜい10円くらいで、しかも圧縮しないと結構な容量となります。これを運送賃を掛けて、ここまで運んでくることを考えると、到底ペイしません。ペイしなければ廃棄物になる恐れがあるので、ここで処理するわけにはいかないということになります。

リサイクル事業を成立させるために 宅配・店舗職員の協力体制をつくる

宅配の現場からすれば、「何でこんなことまでしないといけないのか」という思いはあったと思います。しかし不満が表面化しなかった大きな理由として、まずチーフやマネジャーにエコセンターを見学してもらったことがあります。何がどう処理されているかを見て、「自分たちが回収しなければいけない」ということを分かってもらえるようです。ですから宅配の人は、店舗の人たちよりも理解が早く、「大変だけど頑張ろう」ということでやってもらっていると思います。この秋にも60人が見学を行なう予定です。

店舗では、これまでやらなくていいこと、例えば、魚箱を洗って乾かすなどの作業負荷が大きいので、抵抗はあったと思います。しかし、「環境対策としてコープさっぽろ全体で取り組む」というトップの意思が現場にも反映され、バシッと統一されました。これは

資料 2

すべて増量! おうちやお店から出た資源、こんなに集

※2010年度=2010年3月11日~2011年3月10日の回収実績 ※トータル=オープン(2008年10月)以来の回収実績

回収した量 2010年度 

Weekly (todock) leaflets
**週刊トドック
チラシ**

6,293トン
(コアノンロール1,573万個分に相当します)
1年間に発行している量 8,794トン

トータル **1万4,814トン**

出し方Check!

「納品書兼カード売上票」、カタログ折込のサンプルが混入しないようにしてください。新聞折込のチラシなども回収しています。



回収した量 2010年度  

Corrugated cardboard
ダンボール

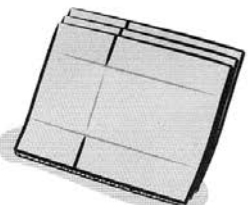
1万5,368トン
(積み上げると461km。富士山の122倍の高さになります)

トータル **3万6,755トン**

出し方Check!

開いて折りたたみ、しばらくに出してください。1回の回収は5枚以内です。

×ビール6缶パックなどコーティングされているもの、汚れているもの、濡れているもの



回収した量 2010年度   

Tempura oil
**天ぷら油
(廃食油)**

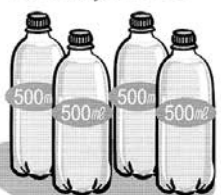
67万1,742リットル
(BDF[バイオディーゼル燃料]車の走行距離336万km分。地球84周分です)

トータル **137万5,973リットル**

出し方Check!

500mlのペットボトルに入れ、栓をきっちりと閉めて出してください。室温で液体の植物油に限ります。賞味期限の切れた未使用の油も出すことができます。

×ラード等動物性の油脂



回収した量 2010年度   

Food tray
発泡トレイ

121トン

トータル **255トン**

出し方Check!

 のマークが裏面に付いたトレイが対象です(折り曲げたら割れるもの)。よく洗って、乾かしてから出してください。トドックでは内袋に入れて出してください。

×紙・プラスチック製トレイ



回収した量 2010年度 

Old newspaper
新聞紙

699トン

トータル **1,080トン**
(※2009年7月から回収開始)

出し方Check!

1週間単位で出し、しぼる時は紙ひもを使用してください。折込チラシは、週刊トドックと一緒に出してください。

×雑誌類



回収した量 2010年度 

Bag on inside
内袋

71トン

1年間に使用している量 266トン

トータル **130トン**

出し方Check!

配達時に張られていたシールははがさず出すことができます。



資料出典：エコセンター・パンフレット（2011年5月発行）

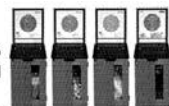
まりました!

店舗

回収資源は紙パック、アルミ缶、発泡トレイ、天ぷら油(廃食油)の4種類。店頭にある回収ボックスにルールを守って入れましょう。組合員証をお持ちの方は、廃食油500ml1本で3ポイントを還元します。サービスカウンターにお申し出ください。

トドック

出す資源物を注文用紙にチェックした上で、担当の配達員にお渡しください。廃食油は500ml1本で3円、その他の資源は量、種類に関わらず1回につき1円を還元します。



※店舗によっては回収できない物もあります。

回収した量 2010年度

Paper carton
紙パック

302トン
(コアノンロール66万個分に相当します)

トータル **662トン**

出し方Check!

紙のマークの付いた牛乳やジュース、酒などの紙パックが対象です。開いて洗って乾かして、出してください。プラスチックの注ぎ口は切り取ってください。

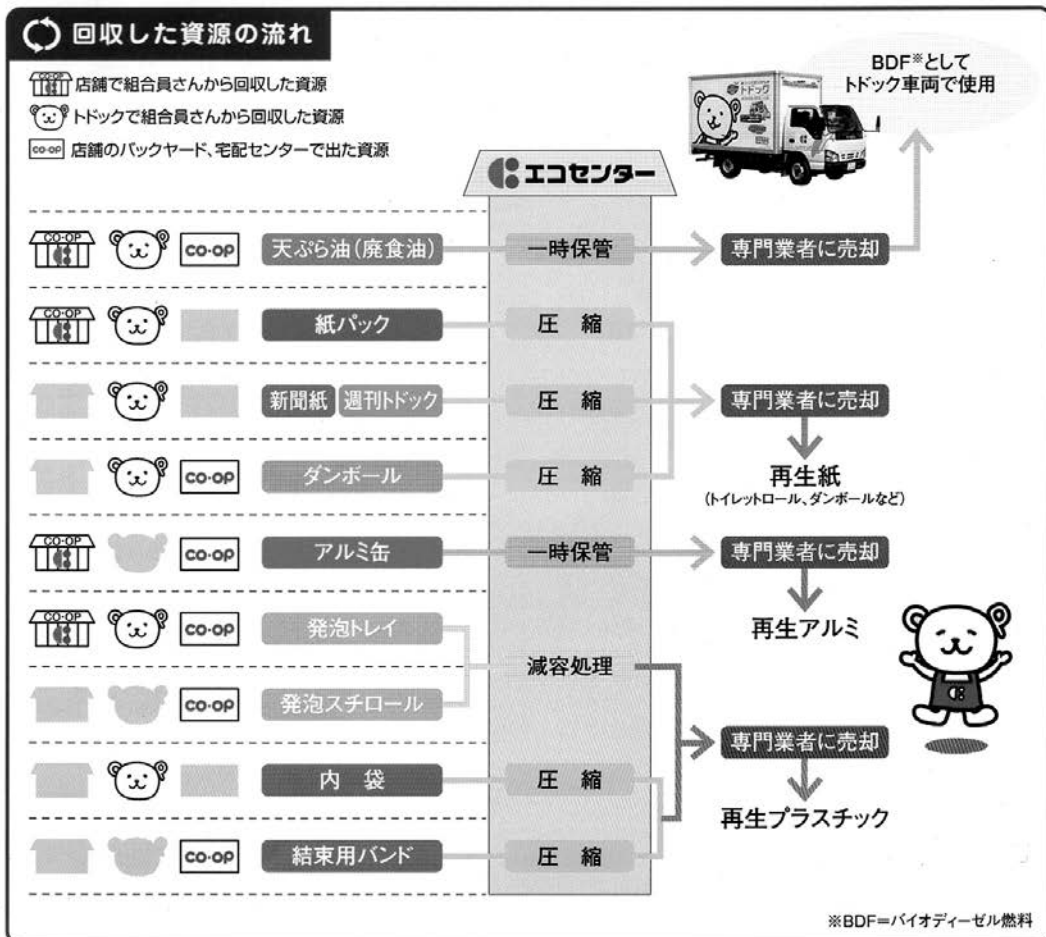
回収した量 2010年度

Aluminum can
アルミ缶

36トン
トータル **70トン**

出し方Check!

△のマークの付いた缶が対象です。よく洗って、乾かしてから出してください。



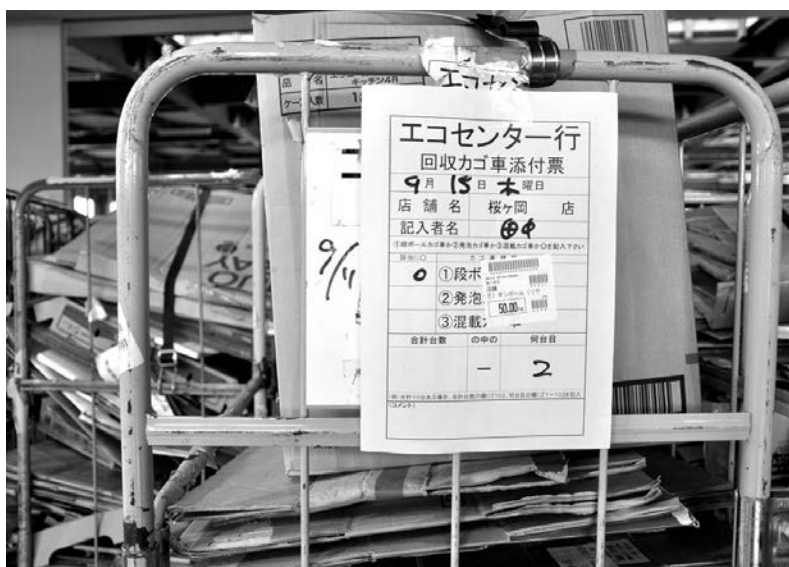


写真2 回収カゴ車添付票

ど徹底されたのは珍しいと思います。

実は総務部長も店長出身なのですが、ここを見学して、「ここまで現場（店舗）が徹底してやっているとは思わなかった」と言っていました。ただし店舗にとって新たな負担となっている部分は確かにあります。そこで各店からの資源回収量を集計し、その販売金額に応じて利益を戻すようにしています。そのためにほとんどの店舗にはかりを設置し、「段ボールはカゴ車1台に50kg載せる」（写真2）など、回収時の決まり事を定めています。

組合員さんが 宅配・店舗に出されるものは総じて良質です

トドックで出される段ボールに、あまり汚れたものはありません。ただし再生できない紙、例えばビール6缶パックのジャケット紙や、表面に樹脂コーティングしてあるものが混じっていると異物混入になりますので、前出の資料（資料2、「出し方Check!」参照）にもあるように、それぞれの資源ゴミをお出しいただく際の決まり事を定めています。ただし、宅配の場合はマン・ツー・マンで受け取ってくるので異物は出せませんし、出された場合にも理由を説明して断ることができますので、混じることはほとんどないようです。

また店舗での回収は、回収ボックス4つだけ（紙パック、発泡トレイ、アルミ缶、廃食用油）です。トレイは以前から回収していましたので

ルールが定着しており、きれいに洗われたものがほとんどです。



廃食用油を組合員から有料回収し、 BDF燃料に再生。宅配配送車の燃料に

廃食用油の有料回収は、センターの立ち上げ時から開始しています。店舗では回収ボックスで、宅配ではお届けの際に500mlのペットボトルに入れてお出しいただくというのですが、「どんな容器に入れて出してもらうか」を考えたとき、真っ先に思い浮かんだのがペットボトルでした。これならばどこの家庭にもありますし、家庭から1回に出す量としても、だいたいペットボトルの量が適当なようです。

お出しいただいたペットボトルは専用の回収ケース（写真3）に収め、そのままサイクルセンターに運び入れるようにしています。もしこれが、現場で大きな容器などに移し替えなければならないとすると、必ず汚れの元になります。回収の際に車の中が汚れると運送会社にも迷惑を掛けることになりますので、組合員さんには、「500mlのペットボトルに入れ、栓をきっちり閉めて出してください」という決まりにしています。ときには、1Lの容器に入ったものを持ち帰ったりすることもあるようですが、組合員の皆さんは非常にきれいにしてくれます。油でべたついたものはまれです。



写真 3

トドックで回収された廃食用油のペットボトルは専用ケース（手前左）で、店舗事業所からはポリタンク（手前右）に入れられエコセンターに届く。ここで開封し、廃食油タンクに貯留する。

なお廃食用油を回収する際、道庁さんから有価回収することを求められました。そのため500mlのペットボトル1本当たり3円（店舗では3ポイント）で組合員さんから購入する形にしています。

回収された廃食用油は、BDF製造メーカーであるエコERC^{エルク}さんに販売しています。ここでBDF燃料にしてもらった上で、軽油とほぼ同じ値段で買い戻し、宅配の配送車などの燃料として利用しています。また、通常ですと油が入っていたペットボトルはリサイクルできないといわれていますが、これもペットボトル回収業者に引き取ってもらっています。この業者さんでは、一応洗浄して処理するようですが、かなりの総量进行处理しているため、若干の不純物が入っても品質上は問題ないとお聞きしています。ですからエコセンターに運ばれてきたもので販売できないものは、店舗からの回収物の中に若干混じる、再生できない紙類程度です。

組合員からの資源ゴミの提供を促す 「仕組み」も用意しています

09年7月から宅配で新聞紙の回収を始めていますが、当初、サービスで預かろうと考えました。しかし行政から、「有価に下さい」

資料3

エコセンター年間回収量

(単位:kg)

	09 年度	10 年度	伸長%
段ボール	14,842,991	16,455,610	110.9
牛乳パック	264,310	302,450	114.4
週刊トドック	5,984,700	6,292,690	105.1
新聞紙	380,870	698,960	183.5
発泡	446,150	473,560	106.1
廃ペット	50,238	58,419	116.3
スチール	32,663	32,850	100.6
PP バンド	37,174	39,662	106.7
内袋	45,648	70,982	155.5
アルミ	26,277	35,761	136.1
廃食油(l)	528,155	671,742	127.2
廃食油(kg)	475,340	604,568	127.2
合計	22,586,361	25,065,512	111.0

とご指導いただきましたので、注文書に新聞紙、段ボール、内袋の受付欄を新たに設け、お出しになる際にマークして出してもらうようにしました。前述のように廃食用油はペットボトル1本当たり3円、他のものは量に関係なく、どれか出していただければ1円です。なお、お店の場合は廃食用油（ポイント付与）を除き、無償でお引き取りしています。

今年で3年目になりますが、回収量は年を追って増えてきています（資料3）。店舗からの回収量が多いのは、やはり年末から1月にかけてとお盆の時期で、売上額と連動しています。ですから回収量を見れば、「この日はあまり売れてない」と分かりますし、曜日でも差があります。また、当然ながら店舗数が増えると段ボールなどの回収量も比例して増えます。なお、トドックでは月別の差はあまり見られません。

エコセンターの収支について

エコセンターの収支は、表（資料4）の通りです。「その他事業収入」が段ボールなどを圧縮して販売した金額で、10年度は2億9,198万円ありました。これが収入です。ここから「人件費」などの経費関係を引いた残り、「経常剰余金」は1億2,412万円です。ちなみに09年度は2億4,352万円の収入で、経常剰余は8,837万円です。この年はリーマンショックの影響で古紙価格がかなり下がり、収入が厳しかったことを反映しています。10年度は価格が回復してきたのでこのような決算となりました。今年の状況からすると経常剰余はさらに伸びる見込みで、1億5,000万円くらいを想定しています。

経費で大きいのは物件費と人件費です。物件費の約半分を占めているのが物流費です。基本的に既存の物流網、“静脈物流”を活用していますが、戻り便を利用するとはいえ物流費はただではありません。各店舗や宅配センターからの戻り便で、「カゴ車1台いくら」と定めており、これが年間で約5,000万円掛かっています。

人件費はかなり圧縮しています。それは、エコセンターにはコープさっぽろの正規職員は1人もおらず、センター長ともう1人は、定年退職後の再雇用です。あとは廃食用油の移し替えを行なってもらうパートナー（パート職員）さんが専任で2人と、庫内作業員が数人。これに段ボールの圧縮作業と発泡スチロール減容作業の現場に販売先から各1人を派遣してもらっています。総計で13人となります。

資料4 エコセンターの年間損益

(実績：千円)

勘定科目	10年実績	09年実績	前年差	前年比
その他事業収入	291,986	243,522	48,464	119.9%
人件費合計	21,175	20,592	583	102.8%
物件費合計	100,400	86,383	14,027	116.2%
資本費計	34,184	33,225	959	102.9%
管理費計	1,552	4,113	-2,561	37.7%
事業剰余金	134,675	99,209	35,466	135.7%
外損益計	-10,548	-10,833	285	97.4%
経常剰余金	124,127	88,376	35,751	140.5%

資料出典：コープさっぽろ「環境の取り組み報告と方針」（編集部にて抜粋）

初期投資額は前述のように5億3,000万円ですが、行政からの補助金などはありませんので、すべて生協からの持ち出しです。しかし既に2億6,000万円の利益を上げていますので、あと2年ほどで投資金額は回収できます。その後は、すべて利益になります。なお、設立当初は古紙価格が高い時期だったので、それで計算すると年間2～3億円は利益が出て、3年程度で回収できるものと考えていました。

また、この収支には表れませんが、トレーなどの回収を行なっていることで、容器リサイクル法にかかわる処理代がこの3年で約4,000万円減りました。これは、店舗で使用したトレーの量を申告し、それに係数を掛けて負担金を払う仕組みです。もともとは年間1億円以上払っていましたが、今は7,000万円弱になりました。さらに店舗では、業者に発泡スチロールを回収してもらっていたのですが、エコセンターで回収するようになったことで年間3,000万円程度改善できました。経常剰余金にこれらを加えると、トータルで年間2億円くらいの損益改善になっています。コープさっぽろの昨年のネットは約10億円でしたので、その2割をエコセンターで稼ぎ出している計算となります。

資源リサイクル事業を行なう場合、 行政と既存事業者との調整がカギです

なお、資源リサイクル事業を行なう場合、やはり行政との関係が一番大きいです。例えば江別市では、「新たな産業廃棄物処理施設の設置を認めない」という条例があるため、産業廃棄物処理施設を造ろうとすると、まずそれに引っ掛かります。仮にこの条例がなかったとしても、すぐ横に中学校があるので、「学校から何メートル以内に、産業廃棄物処理施設を造ってはいけない」という法律に抵触し、どちらにしてもここには建てられませんでした。そのような事情もあり、ここは産業廃棄物処理施設ではなく、廃棄物再加工工場として認可を得ています。

また、既存の事業者との関係も大きいと思います。産業廃棄物処理業界は大変複雑で、既得権益的な業界になっています。ですから、

ネット・オフと提携し、 組合員宅からの「買い取りサービス」も開始

エコセンターとは直接関係していませんが、10年8月からネットオフ株式会社と提携して、不用品の買い取りサービスも開始しています（資料5）。「買い取り」の仕組みは、生協が宅配などでチラシを配布し、本人が電話で申し込み、宅配便の業者が来て不用品を回収し、見積もり額が出て、本人が了解すればその額が指定の口座に振り込まれるというものです。ですから生協が関わっているのは、最初の紹介の部分だけで、まさに代理店のようなものです。紹介件数や回収量の縛りなどありませんので、やろうと思えばどこの生協でもできることだと思います。

手数料収入は、「1件当たりいくら」という形です。開始当初は、かなり宣伝もしたので、利用は月に300件以上ありましたが、現在では、月100件くらいで推移しています。やはり、知らせ続ける工夫が必要で、宅配にはもう一度知らせる活動をお願いしています。回収は書籍が中心ですが、それ以外にもCDや貴金属、ブランド品の買い取りもしています。なお、貴金属類などお出しいただいた際の手数料は、査定により変動します。生協としては、商品カタログやチラシなどで案内を入れさえすればよく、利用件数さえ確保できれば安定して収益を挙げ続けられる仕組みとなっています。

COOP さっぽろ CO-OP NET OFF コープさっぽろはネットオフの買取サービスと提携しています。

コープ買取サービス

コープさっぽろはより多くの組合員様にご利用いただくため、ブランド・ホームコースとして家電や玩具、子供用品などお売りいただける商品を拡大しました。この機会にぜひご利用ください。

送料無料の宅配便で お売りください。

コープさっぽろ限定企画

期間中、ご成約いただいた方に
抽選で10人に1人
1,000円分のVISA商品券を
プレゼント!

2011年
12月末日
まで

*当選発表は賞券の発送をもってかえさせていただきます。

選べる2つのコースで買取商品もボリュームアップ!

NEW ブランド・ホームコース

ブランドバッグ
時計
バッグ/時計/財布/ジュエリー
/靴/小物/西洋器

金・プラチナ
宝石
金/プラチナ/宝飾品/貴金属/
アンティーク

デジタル家電
カメラ
デジタルカメラ/ビデオカメラ/
iPod/iPad/HDDレコーダー/
ゲーム本体

携帯電話
docomo/SoftBank/au

本・CDコース
コミック・書籍
CD

30点から買取
DVD
ゲームソフト

楽器
弦楽器/管楽器/鍵盤楽器/レコー
ダー/CD/DVD/MP3プレイヤー

フィギュア
プリキ玩具
フィギュア/ミニカー/ラジコン
カー/プリキ玩具/電動工具

ゴルフクラブ
釣り具
ゴルフ用品/釣り具/スノーボード用
品/マリンスポーツ用品/タニシ他品

ベビーカー
ブランド子供服
ベビーカー/チャイルドシート/学
習教材/ブランド子供服

DVD
ゲームソフト

ゲームソフト

お売りいただけない
商品の例

本・CDコース 雑誌・教科書・資料集・参考書・辞書等、バーコード・ISBNコードのない本。
ブランド・ホームコース 5年以上前の商品は買取が付きにくい場合があります。(一部のブランド、貴金属を除く)壊れて使えないもの、(貴金属は壊れていても大丈夫です)

**とっても
簡単
4
ステップ!!**

①お申し込み
お電話または
インターネットから
お申し込み
ください。

②箱に詰める
お送りいただく箱は組合員
様でござります。箱には
買取申込書と本人確認書類
のコピーをお入れください。
(本人確認書類のコピーは運転免許証・健康保険証のみとなります。)
※「ブランド・ホームコース」と「本・CDコース」の両方
をお申し込みの方は、必ずコース毎に段ボールを分
けてお送りください。

③荷物を渡す
ご自宅まで
ヤマト運輸が
無料で集荷に
伺います。

④すぐ入金
査定額を「メール」か
「ハガキ・封書」で
お知らせします。
OKであればメールもしくは
お電話でご連絡ください。
銀行等にお振込みいたします。

※振込み先は銀行口座は本人確認書類に記載されている本人の口座のみです。
※ご自宅以外を振込先に指定いただいた場合は、郵便番号郵便で本人確認書類に記載されているご住所に本人確認書類を送付いたします。

「人気商品は高く買取」がネットオフのポリシーです。

**独自の
相場連動システムで
高価買取!**
「せいかかり」の相場連動システムで高価買取。
人気商品は
高価買取
を実現します。

**15時までの
お申し込みなら、
当日無条件!**
※無条件買取です。
さらに、査定額超過2日以内で指定の銀行
口座に買取金額の入金も可能です。

**送料は
もちろん無料!**
査定額に送料を含めることは決して
行いませんので、ご安心ください。
※買取不成立の場合のご返送料は
「本・CDコース」のみお持ち帰り品に
ご負担となります。

**買取申込書は
コープさっぽろの
ホームページから
ダウンロードが
できます。**
コープさっぽろ 検索

コープ買取センター お申し込み、お問い合わせはこちらから。

0120-057-722
24時間受付 年中無休
電話番号は十分お確かめの上、おかけ間違いのないようご注意ください。

www.netoff.co.jp/todock
お申込時にエコクーポン番号「CP5-390202」をご入力ください。
WEB経由のお客様は登録情報に変更が無い限り2回目以降の
ご利用は本人確認作業が不要です。

ネットオフ株式会社
〒474-0053
愛知県大府市成山町
三丁目33番地
古物商許可番号
541050100700
愛知県公安委員会許可
11.6.13

(コープさっぽろHP案内掲載)

設立経緯の際にお話しした初代センター長の杉本は、これまで取引のあった事業者にお断りして回るのに大変苦労したようです。まあ、北海道の事業者は比較的優しくて、話せば分かってもらえたようですが、他の地方の話をお聞きすると、とてもすんなりいくような状況ではないとのことでした。

今後の事業展開について ～“静脈物流”に乗ることが回収の前提です

現在回収している資源以外にも、回収しようと思えばできるものがありますが、要は、「採算に乗るかどうか」です。携帯電話や、前述のペットボトルなどの話が出ることもありますが、調整している段階で採算が取れないことが分かって、断念することもあります。

エコセンターでは回収量を増やせば、それだけ利益を出せる構造になっているので、事業外の資源物についてどれだけ取り組めるかが今後の課題としてあります。しかし、“静脈物流”の戻り便を使うことで利益が確保されているので、その点をクリアできないモノについては取り扱いを増やせないというのが現実です。

新聞の回収は始まってまだ1年なので、月ごとに回収量は増え続けています。また、トドックでの廃食用油の回収量も想定以上に増え続けています。今まで家庭では、固める薬剤や油処理パッドなどコストを掛けて捨てていたものが、ペットボトルに入れて宅配に来た人や店舗に持ち寄るだけで、代金の還元や生協のポイントが付く——この部分が主婦の方に高く支持されているのではないかと思います。

スマートメーターの導入実験や 自然エネルギー開発も進めています

なお、エコセンターの取り組みからは離れますが、コープさっぽろではエコの観点から、今年、店舗での使用電力の削減に意欲的に取り組んでいます。例えば、岩見沢東店ではスマートメーター^{※1}を導入し、36系統ある電力が随時どのように使用されているのかを確認できるようにしています。これを詳細に分析することで、「この系統の電力は、この時間帯は切っても問題ない」というような制御の仕組みができないか検討中です。このような仕組みを全店に導入できれば、電気使用量をかなり減らせると考えています。

また自然エネルギー開発として、メガソーラー^{※2}を道内に造れないかと検討中です。設置場所や電力の買い取り価格の問題もようや

※1 通信機能を持った電力メーターのこと。電気使用量の検針作業が不要になるほか、常時、使用機器の運転状況・制御を行なうことができ、大幅な省エネが期待できる。

※2 大規模太陽光発電施設。

く決まりましたので、それをもとに損益計算を行ない、具体化に向けて検討中です。さらにバイオマスの活用についても検討を進めています。現在、補助金を受けて函館エリアにプラントを造り、店舗から出る食品残さや酪農家から家畜の糞尿を集めてメタンガスを発生させ、店舗の調理などに活用する計画を立てています。プラントからは液肥も出るので、これについては「ご近所野菜」※3の生産者の人たちに、良質な肥料として使っていただくことも考えています。このような取り組みが、来年4月くらいから始まる予定です。

※3 コープさっぽろの店舗で提供している、近隣生産に限定した農産物のこと。

「店と同じように、いい商品をつくり、売る」という意識を持つようにしています

おおにし かつのり
コープさっぽろ エコセンター センター長 大西克則氏

エコセンターを運営する上で気を付けているのは、再生原料の品質です。回収したものは、常にきれいな状態で集まってくるとは限りません。どこの店舗、宅配センターから来たものかは分かるので、あまりにひどい場合には写真を撮って店長やセンター長に連絡し、以降、気を付けてもらうようにしています。店舗では担当者が入れ替わった際、引き継ぎがうまくできていないと、瞬間的に分別が乱れることが多いようです。このような際のフォローは、常にし続けるようにしています。



大西克則氏

当初は試行錯誤で作業の組み立てを行なってきましたが、3年がたち、今はおおむねセンターの運営も落ち着いて、ベストな状態になっていると感じています。また、ここでは手作業で異物を取り除いているので、業者にとってもよい状態で再生原料をお出しすることができ、ほとんどがAランクで買い取ってもらっています。再生品といえども、原料として売っているわけですから、「店と同じように、いいものをきちんと売る」という意識を職員同士で持つようにしています。つまり私たちは、「商品を作っている」という感覚で対応しているということです。そのためには前述のように、お店や宅配の現場職員、それと組合員さんにどれだけ徹底して分別・整理してもらえるかがカギとなります。また、“静脈物流”を活用して回収するわけですから、段ボールや発泡スチロールも洗って乾かして、カゴ車にきれいに積んでもらわなければなりません。それが、この事業のキモだと考えています。もし“静脈物流”を利用せず、ゴミ回収車で回って回収するとなると、北海道は広いので、たぶん今の4、5倍の運送費が掛かって、到底、事業として成り立たないと思います。